

みなとしみず

国土交通省中部地方整備局
清水港湾事務所
御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所
静岡市清水区日の出町7番2号
TEL. 054-352-4146(代表)
http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp

～お知らせ～

12月18日(月)「港湾の中長期政策『PORT 2030』中間とりまとめ(国交省港湾局)」公表、パブリックコメント受付開始
※内容は以下のページでご覧いただけます。(意見・情報受付締切日:平成30年2月28日)
http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public [案件番号 155171108]

年頭の挨拶

明けましておめでとうございます。

年初の「みなとしみず」発行にあたり、ご挨拶申し上げます。

昨年も、当事務所が実施しております県内港湾の整備・振興活動につきまして、たくさんの方々にご理解とご協力を賜り、あらためまして厚く御礼申し上げます。

2017年は、清水港で特定外来生物「ヒアリ」が確認され、世間を騒がせました。また、管内広域で台風21号の直撃を受け、高潮・高波による浸水や港湾施設の損壊といった大きな被害ももたらされました。安全を脅かすような事象が例年になく立て続けに発生いたしました。こうした事態に円滑に対処することが出来たのは、関係各位のご支援・ご協力のおかげであります。

賑わいの面では、何といたってもクルーズ政策です。清水港が全国6港のうちの一つとして、国際クルーズ拠点に選定されました。クルーズ船の寄港数も飛躍的に増加し、海洋文化拠点を目指す清水ウォーターフロントの開発にも大きな弾みとなると期待されています。

今年も、職員一同が一丸となり、港湾行政の推進に取り組んで参りますので、より一層のご指導・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

清水港湾事務所長 馬場 智



<12月22日 清水港に入港したクルーズ船2隻と興津ふ頭に係留する「ちきゅう」>

牧野国土交通副大臣が清水港をご視察

12月18日(月)牧野国土交通副大臣が清水港を訪れ、日の出地区、袖師地区、新興津地区を視察されました。

日の出地区では、当事務所長 馬場より、係船柱・防舷材改良工事に関する説明、静岡県 杉山港湾局長による「国際旅客船拠点形成計画」についての説明を行いました。また、日の出地区を中心として進めていく「清水港海洋文化拠点施設基本構想」について静岡市 美濃部副市長より説明があり、同地区の賑わい創出における気運の高まりを感じていただきました。

袖師地区では、平成28年10月より就航している内貿 RORO 船※「北王丸」の内部を視察されました。川崎近海汽船(株)清水事務所 市島所長の案内で、ドライバーズルームも含め船内を見学し、RORO 船の活用における環境負荷低減やドライバー不足の問題解消への貢献について、理解を深めていただきました。

最後に新興津地区では、静岡県 安達管理局長より、国際コンテナターミナルの利用状況や、隣接する緑地・人工海浜の整備状況について説明を行い、8月に発見されたヒアリへの対策状況もご覧いただきました。



<日の出ふ頭改良事業説明の様子>



<新興津コンテナターミナルのガントリークレーンご視察の様子>

*RORO 船とは「Roll On Roll Off 船」の略で、一般貨物を乗せたトラックやトレーラーが直接船に乗り入れることで輸送を行う「貨物専用フェリー」のことを言う。

清水港湾事務所において工事安全大会を開催

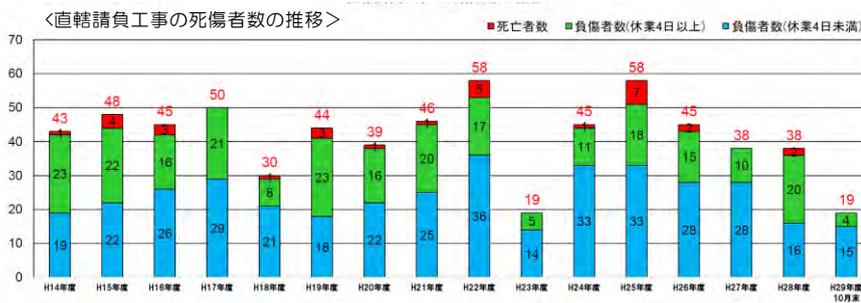
港湾空港関係直轄工事において、平成28年度は全国で2件の死亡事故を含む全38件の死傷事故が発生していることから、より一層の安全確保、事故防止対策の強化が必要となっています。

このため、当事務所では、清水・田子の浦・御前崎・下田各港の国（直轄）港湾工事における「受注者」「発注者」双方の安全に対する認識を深め、工事の無事故・無災害を目的に、確実な安全対策・現場管理が進められるよう、11月6日（月）、清水マリビルにて「平成29年度工事安全大会」を約60名の参加者のもと開催しました。

静岡労働基準監督署 重信副署長から、「死亡災害撲滅に向けた緊急要請のポイント」と題し、平成29年の労働災害による死者数が対前年比で増加した事を受け、厚生労働省が職場における死亡災害撲滅に向けて要請した内容の説明がありました。さらに、清水海上保安部 大川交通課長から「海上工事における安全対策について」と題し、クレーン付台船のスパット落下に伴う運航障害の事例を踏まえた講演がなされ、清水港ではクルーズ船やRORO船の定期入港など船舶環境が大きく変化している事から、仮に工事用船舶による事故が一般船舶の運航を妨げる事になれば、社会的にも経済的にも大きな影響を与えるとの説明がありました。

その後、中部地方整備局 野口港湾空港整備・補償課長から、「港湾工事の安全について」の講話があり、平成28年度発生した中部の港湾空港関係の現場の事故・公衆災害を踏まえた、港湾空港部としての事故防止の具体的な対策を示されました。また、事故の再発防止対策に加え、建設技能労働者の人材確保に向けた取り組みなどが強調されました。

最後に、事務所管内の工事を現在担当している11工事、9社より、無事故・無災害に向けた具体的な安全対策の取り組みと自社の安全標語の紹介があり、工事安全スローガンの唱和にあわせて、参加者全員「おー」のかけ声で工事故撲滅・安全意識向上を確認しました。



＜大会出席者が唱和する様子＞

ドローン技術を活用した災害後の現地調査試験の実施

中部地域では、南海トラフ巨大地震や東海地震、それに伴う大規模な被災が危惧されています。災害時には陸上交通網の混乱、寸断が予想され、救援物資の輸送や避難者の救助には、船舶の活用が有効と考えられます。一方で被災直後には、津波警報・注意報が発令し、岸壁付近に人が容易に近づけない可能性も想定されます。

そこで中部地方整備局は、12月6日（水）清水港日の出ふ頭において、ドローンを活用した港湾施設の被災状況確認に関して、現地調査試験を実施しました。試験では、被災した港湾施設を再現するため、岸壁上に模擬ひび割れと模擬段差、海面に模擬浮遊物を設置しました。ドローンは、小型のものからレーザーキャナを搭載した大型のものまで複数機用意し、上空から岸壁を撮影しました。撮影した映像は地上に用意したモニターに写し、被災状況が精度良く確認できるか、また自動航行の性能や機器の操作性についての確認も行いました。

今回取得したデータを踏まえて、ドローン技術を活用して安全、迅速に被災時の港湾施設の状況が確認できるよう引き続き検討を進めます。



＜ドローンが飛行する様子＞



＜ドローンに搭載したレーザーキャナによる画像＞

静岡県「地域防災の日」における防災訓練

静岡県では、12月の第1日曜日を「地域防災の日」と定め、12月3日（日）に各地域の自主防災組織で地域防災訓練が行われました。

午前9時に、県内一斉に緊急速報メールが配信され、地震発生と避難を促す放送が流されると、周辺住民の約100名の方々が、津波避難ビルに指定されている当事務所所有の宿舍屋上に避難しました。その後の講評では、静岡市 堀市議会議員も駆けつけられ、自助共助の大切さなどのお話しをされました。

当事務所は、地域の防災訓練に参加するとともに、独自の訓練をおこないました。宿舍に在住する職員が中心となり、宿舍5Fの一室に災害対策支部を設置し、港の災害復旧対策や災害支援物資輸送船の受入に必要な港の被災状況の把握、及びその情報の伝達訓練などを行いました。

訓練に参加した職員からは、屋上に避難されている方に対して、どのようなケアができるのかの議論や、さらに必要となる資機材の提案などがありました。

当事務所では引き続き、このような訓練を通じ、大規模災害が発生した際に、港湾管理者、県内の地方自治体等と連携し、迅速な対応と一刻も早い港の復旧復興を目指して参ります。



<当所宿舍に避難した周辺住民の方々>



<宿舍屋上に避難した様子>



<挨拶される堀市議会議員>



<訓練（被災状況の把握）の様子>

台風21号による被災

10月22日（日）～23日（月）にかけて、静岡県に台風21号が襲来しました。台風21号は、23日（月）午前3時頃に超大型で強い勢力（約950hPa）をもって、御前崎市付近に上陸しました。その後北上し、同日午後3時頃には北海道の東で温帯低気圧に変わりました。

この台風により、静岡県の各所で被害が発生しました。特に清水港では、高潮による浸水被害が発生し、過去の最高潮位を1cm上回る141cmを観測しました。清水港周辺の日の出地区では、道路の一部が冠水したことによる交通障害もあわせて発生しました。また、港湾施設においても岸壁が破損するなど、大変大きな被害をもたらしました。

今後、当事務所は静岡県とも協力し、これら被災をうけた港湾施設の一刻も早い復旧に努めて参ります。



<台風通過後（田子の浦港）>

[写真提供：静岡県]



<浸水被害（日の出）>



<台風通過後（御前崎港）>

RORO船を活用した橋梁部材の運搬

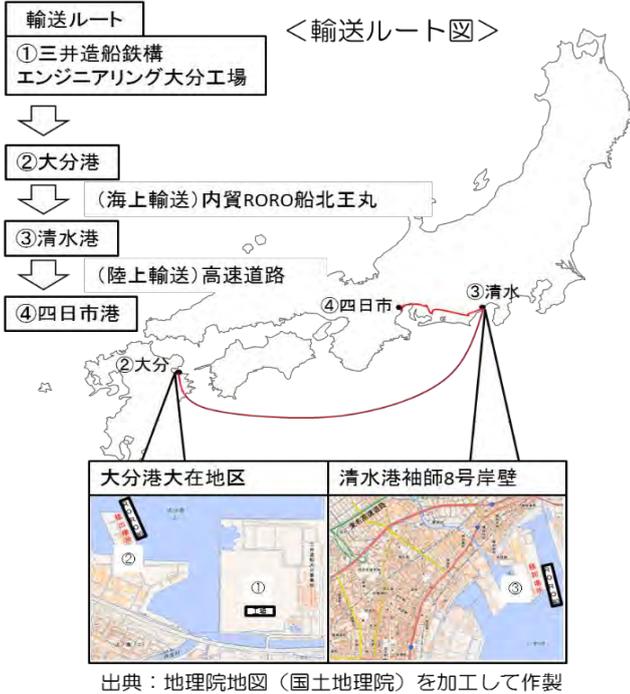
12月上旬、中部地方整備局四日市港湾事務所が施工する臨港道路（霞4号幹線）の橋梁部材が、RORO船「北王丸」により大分港から清水港へ運搬されました。



＜12月6日の橋梁部材運搬の様子＞

RORO船を利用することにより、長距離トラックドライバー不足や長距離運転の安全確保といった問題解消に貢献できます。今回は大分県内の工場から四日市港までの運搬方法に、清水港の航路が利用されることになりました。橋梁部材をのせた16台のトレーラーは、RORO船から清水港に降り、四日市にむけて出発していきました。

現在「北王丸」は清水港～大分港間を20時間で結び、週3便の運航ですが、今年3月からは週6便へ増やす計画です。今後も様々な用途での利活用が期待されています。



県内の小中学生が清水港を見学しました

10月～12月にかけて、県内6つの小中学校の生徒と先生が、社会科学習の一環として、港の機能や役割、清水港の歴史や特徴などを学習するため、清水港の見学に訪れました。

見学会に訪れた生徒たちは、海上から清水港を見学し、間近で見るコンテナターミナルやコンテナ船の荷役状況、防波堤を前にとても驚いていました。

また、室内学習では、当事務所の職員が清水港の物流や防波堤の機能について映像や模型をまじえて解説しました。模型を使って実際に生徒たちが波をを起こしてみることで、より防波堤の役割について理解した様子でした。

全体を通して、生徒たちは積極的にメモを取ったり質問をしたりと、港についての興味・関心が深まった様子でとても有意義な見学会となりました。



＜船内で清水港について学ぶ様子＞



＜防波堤模型を使った説明＞

★以下の小中学生が見学しました★

- 10月20日 富士宮市立富士根北小学校
- 11月9日 静岡市立井川小中学校
- 11月20日 静岡市立清水小学校
- 11月28日 富士市立原田小学校
- 12月1日 藤枝市立大洲小学校
- 12月5日 小山町立明倫小学校



港湾技術を活用した海辺の環境創造プロジェクト【取組報告】 マリニパークに藻類や小さな生物を呼び込むブロックを設置しました

清水港では、「港湾技術を活用した海辺の環境創造プロジェクト」（以下：環境創造プロジェクト）を行っています。その取り組みの一つとして、藻類や生き物を呼び込んだり、生長が促されたりする工夫を施したブロックを清水マリニパークに設置しました。今後、ブロック周辺の変化の様子を観察・報告していきます。今回は、10月から12月にかけて設置したブロックをご紹介します。

【10月27日（金）ミニアミコン^{※1}ブロック 設置：日建工学(株)

○アミコンで製作したミニブロック6個を設置しました。
○ブロックは8月の「夏休み親子見学会」参加の親子が製作したものです。

【11月22日（水）環境共生型ブロック 設置：(株)不動テトラ】

○環境共生型ブロック（イオンカルチャープレート^{※2}付き、シェルナース^{※3}付き）を、効果を比較するため通常タイプとともに設置しました。
○環境共生型ブロックの一部には、波消しブロックを身近に感じてもらうため、東海大学学生ボランティアと市民の方に、海の生物をペイントして頂いています。

【12月22日（金）ワカメの種系付きブロック 設置：日建工学(株)

○身近にワカメの生長が観察できるよう、ワカメの種系を付けたブロックを設置しました。

どのブロックもマリニパークより見られるので、近くにお立ち寄りの際はぜひご観察下さい。

^{※1} 人や動物にとって必要不可欠なアミノ酸を練り込んだコンクリート。

アミノ酸の作用で、ブロックへの小さな藻類の付着、生長が期待できる。

^{※2} 藻類の生長に必要なリン、鉄、ケイ素等を溶出するガラス素材を付けたプレート。

^{※3} 網状ケースにカキやホタテの貝殻をいれ、隙間に小型の生物が生息できるようにした装置。



<アミコンブロック設置状況>



<環境共生型ブロック設置状況>



<ワカメ種系付きブロック設置状況>

地球深部探査船「ちきゅう」一般公開が行われました

12月23日（土）～24日（日）、海洋研究開発機構（以下：JAMSTEC^{ジャムステック}）の運用する地球深部探査船「ちきゅう」の一般公開が、7年ぶりに清水港日の出ふ頭にて行われました。2日間通して、約7,800名が「ちきゅう」に乗船し、船内見学をしました。

「ちきゅう」は巨大地震発生のおそれ、地球規模の環境変動、地球内部エネルギーに支えられた地下生命圏、新しい海底資源の解明など、人類の未来を開く様々な成果をあげることを目指し、海域における大深度の掘削・調査を行っている船です。

当日は、清水マリニターミナルにて「ちきゅう」寄港記念イベントが行われました。イベントの一部として、当事務所からは、上述の環境創造プロジェクトを出展し、日建工学(株)による波消しブロック型キャンドル製作や造波実験、不動テトラ(株)による環境共生型ブロックを用いた取り組み紹介VTRの上映、鈴与建設(株)による大型係船柱模型の展示やドローンのフライトシミュレーターなど、港を身近に感じてもらうための企画を実施しました。

また、当事務所の港湾業務艇「まさき」に乗船して、海上から「ちきゅう」を眺める港内見学も同時開催しました。見学者からは、普段見ることのできない清水港の景色に歓声が上がりました。



<環境創造プロジェクト出展の様子>



<海上から「ちきゅう」を見学する様子>

シリーズ「モノから見える清水港」⑨(全10回)

安宅船（あたけぶね）

織田信長に対抗した大坂本願寺に軍需物資を搬入する瀬戸内海の家来船を描いた『村上家来船の娘』は2014年の本屋大賞を受賞しました。日本遺産にも登録された瀬戸内海の“KAIZOKU”は別に水軍とも呼ばれた海の武士であり、商人でもあった人々でした。これらの家来船は大坂や紀伊半島東部の鳥羽や伊勢、駿河、伊豆地域などにも抜去し、戦国時代になると大名配下の水軍になっていきました。彼らが乗船した船は安宅船・関船・小早と呼ばれ、現在でいえば戦艦・巡洋艦・駆逐艦になぞらえることができるでしょう。フェルケール博物館の第3展示室には、このうち安宅船と関船の2艘の模型が並んでいます。帆印に菱が描かれていることから甲斐の武田氏の軍船とわかります。安宅船は全長が30mほどで、舳先には大筒が仕込まれていました。また、甲板の楯板には鉄砲狭間が穿たれ、中段の楯板とも敵船に乗り移るために外側に倒れるように造られていました。艦は両舷で50挺以上が備えられていました。この安宅船と関船模型を作製する元となった雛形は東京都八王子市の信松院に保存されており、東京都の文化財に指定されています。武田氏滅亡後に信玄の4女の松姫は八王子にたどり着き、信松院を開いて武田氏の菩提を弔いました。武田氏の旧臣が豊臣家の家臣・小早川隆景に仕えた際に、朝鮮半島に侵攻した軍船の雛形を作製して信松院に奉納したと伝えられます。フェルケール博物館の模型はこの雛形を拡大したものです。

さて、今川義元の時代には清水湊に水軍が配置されていました。岡部・間宮氏など水軍の武将名も伝わっていますが、武田家が駿河国に侵攻するとこれらの今川水軍を自軍に取り込んでいきました。現在の江尻小学校は武田信玄が築いた江尻城の跡で、水軍も入ることができたといえます。信玄は岡部・間宮氏らに伊勢水軍の向井・小浜氏らをスカウトして加え、武田水軍を編成していきました。甲斐国には海はありませんでしたので、これが初めての武田水軍となりました。実は、伊勢水軍を配下にしたことで、武田氏は伊勢―清水の航路と商圏を手に入れることにもなりました。

武田氏が滅びた後、水軍は徳川氏へと引き継がれ、江戸時代には幕府水軍として存続しました。向井氏らの水軍屋敷は江戸城南西側にあたり、墨田川の河口部分で海が入り込んだ場所に配置されました。現在は日本橋1丁目に「かいうんはし」と刻まれた石碑が建ち、目印となっています。明治時代初期に海賊橋では縁起が悪いと、海運橋と呼ばれました。



安宅船模型



開かれた楯板

※このシリーズは「モノから見える清水港」について紹介するもので、今回は連載9回目です。

橋原 靖弘（ちんばらやすひろ）1962年 藤枝市生まれ、フェルケール博物館 学芸部長

海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれみなと

0120-497-370

受付時間：9時30分～12時、13時～17時（土・日、祝祭日は除く）

☆携帯電話・PHSからもご利用できます☆

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは何でもお問い合わせください

■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課

江口・坪倉 Tel 054-352-4148

ご意見ご感想をお寄せ下さい。🍀

pa.cbr-shimizukouwan@mlit.go.jp